

意外な 音楽が生み出した変化 第2回

CASE 1

大阪警察病院

手術中に流れる音楽とは？



大阪警察病院
副院長・看護部長
増田えみ様

誰もが緊張してしまう病院内。少しでも音楽でリラックスして欲しいと言う副院長を中心に、USENを活用し病院内や、手術中に音楽が流れているという大阪警察病院。医療現場でBGMがもたらした変化について、看護の現場の声を伺いました。

——もう長い期間、音楽を活用しているんですか？

副院長 増田様 この病院は、他の病院よりも音楽がたくさん流れているんじゃないでしょうか。USENを導入する以前、古い話になりますが、ある患者さんが手術の際の要望として、好きな音楽をカセットテープを持ち込んで流したんです。担当した医師も反応はよく、それから音楽を流す習慣が定着し続けているんですよ。

——手術中は緊迫したイメージがありますか？

増田様 局所麻酔だと、手術中もずっと意識はあるので、不安や緊張を和らげたり、意識を紛らわせたりするために音楽があったほうが断然いいです。自分が何をされるのか、誰でも意識しますよね？無音の空間では緊張が続いてしまいマイナスに働きます。医療現場におい

て音楽はとても大事な要素になっているんです。

——院内全体でBGMが流れていますね。

増田様 音楽を流すことは、病院側からの患者さんへの配慮のひとつ。病院のグレードであり、人へ安心感を与えるものだと思うんです。心地よくUSENから流れる音楽で、上品な品性などが伝わるといいと思い使っています。

——手術の際、実際どんな音楽が流れていますか？

副看護師長 濱田様、クラーク 橋本様 患者さんからの要望に合わせる場合もあれば、担当する先生によっても違いますが、「気合いを入れるから、サザンにして」など指定があります。テンションを上げ、かつ冷静な精神状態を維持するために、それぞれ先生のお好きなチャンネルがあるようです。

——院内のフロアごと音楽が違いますね。

濱田様、橋本様 エントランス・ホールは、手術を待つご本人、家族の方々も不安でいっぱい。そんな場所なので、少しでも気持ちが落ち着き、待ち時間を長く感じさせないようにUSENのクラシックを使います。治療以外の面においても、気使いや配慮を大切にしたいと思っています。また、働く私たちが忙しさの中、USENがちょっとした心のゆとりにもなっています。



1 所在地は大阪市天王寺区北山町10番31号 2 手術医療センター 中央手術室 副看護師長 濱田弥生様(写真右)とクラーク 橋本正美様(写真左)